

伊豆地区分科会

11月20日開催

伊豆半島ジオパークを生かした地域の活性化と 世界認定に向けてをテーマに基調講演とパネル討論



「サンフロント21懇話会」(代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長)は11月20日、第18回伊豆地区分科会を伊東市のホテル暖香園で開いた。約150人が参加し、9月下旬に日本ジオパークに認定された「伊豆半島ジオパーク」を生かした地域の活性化、世界ジオパーク認定に向けての取り組みなど探った。

北村敏廣静岡新聞社専務と佃弘巳伊東市長のあいさつに続き、元京都大総長で日本ジオパーク委員会の委員長を務める尾池和夫氏が「伊豆半島ジオパークに期待する」と題し基調講演した。尾池氏は「ジオパークは貴重な大地や大地の恵みを見て、食べて、学んでもらうことが大事。地球と人とのか

わりを楽しみながら学ぶ活動を展開してほしい」と訴えた。動き回る大地・日本の地震や火山活動にも触れ、「災害と共存してきた日本の知恵と文化を世界に発信することも大きな役割だ」と強調した。

パネル討論のテーマは「ジオパークで伊豆の経済を活性化」。兵庫県香美町ジオパーク推進員の今井ひろこ氏、伊豆急行代表取締役社長の永瀬巖氏、いとう漁業協同組合代表理事専務の日吉直人氏、伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員の鈴木雄介氏が登壇した。それぞれの活動を紹介し、ジオガイドの養成やリピーターの確保策、資源や物語の発掘、ビジターのための拠点整備などの課題を取り上げた。

主催者代表あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村 敏 廣

伊豆地区分科会に多くの皆さまのご来場をいただき誠にありがとうございます。サンフロント21懇話会の活動は今年で18年目を迎えました。会員皆さま方のご支援、ご協力のたまものと心より感謝しております。

本日はジオパークがテーマです。ジオパークは一般に貴重な地形や地質を楽しめる大地の公園と表現されています。伊豆半島には躍動感あふれるダイナミックな景観が多数みられ、9月には県内で初めて日本ジオパークに認定されました。関係の皆さまおめでとうございます。今後は世界ジオパークを目指し、着実な一步を積み重ねていってください。こうした自然の素材を地域の活性化にどうつなげるか、これが本日の狙いであります。

基調講演の講師は京都大学総長を務められた尾池和夫先生です。地震学が専門で日本ジオパーク委員会の委員長です。著名な先生をお迎えできました。パネル討論にはジオパークの先進地兵庫県から推進員の方をお迎えしました。伊豆半島にとって大いに参考になるお話が聞けるものと期待しております。

開催地代表あいさつ

本日の伊豆地区分科会は時宜を得た企画で、しかも日本ジオパーク委員会委員長の尾池和夫先生が多忙の中、講演してくださいませ。伊豆半島ジオパークの地元として主催者に深く感謝申し上げます。

伊豆半島ジオパークは7市6町で推進協議会を構成し、東京ドーム3万3千個分の広さがある伊豆半島に108カ所のジオサイトを選定して磨きをかけているところでもあります。ジオガイドの方々も大変熱心で現在の36人からさらに50人を増員する方向で地元から盛り上げようと頑張っております。さらに一人でも多くの方に分かりやすい看板やルートづくりなどを進め、ビジターセンターの設置も県知事に相談を持ちかけているところです。

3年後の世界ジオパーク認定を目指していきます。地域からの発信が日本全土に広がり、世界へと進んでいく。地域の方々の情熱があれば必ずや成し遂げられる成果だと期待しています。「世界を目指す」を合言葉に地域の皆さまと一緒に推進してまいります。伊東市での開催に重ねて御礼を申し上げます。



伊東市長

佃 弘 巳

基調講演

「伊豆半島ジオパークに期待する」

日本ジオパーク委員会委員長(元京都大学総長)

講師 尾池和夫氏



認知度高め、ジオパークを広辞苑に

伊豆半島ジオパークには2012年11月、高知県室戸市で開いた第3回日本ジオパーク全国大会で認定証を差し上げました。きょうはジオパークに、特に伊豆にどう期待するかということがテーマですが、まず背景にある地球の仕組みや日本列島の地震の起こり方などについて基本的な理解をしていただき、日本海が拡大してきた仕組み、昨年起きた東北地方太平洋沖地震、予測される西南日本の巨大地震、そして皆さん方が目指している世界ジオパークの最近の動向についてお話したいと思います。

ジオパークは認定して4年目に再審査をすることになっており、世界認定を目指して申請する際に必要な推薦状は日本委員会が付けます。そこでジオパークの活動がどのように行われているのか、チェックしながらこの会場にやってきました。まず熱海の新幹線の駅で聞いてみました。どなたもご存じなかったというのが印象です。伊豆の玄関口ですから、インフォメーションセンターに言えば伊豆半島ジオパークの資料をさっと渡せるようにしておいていただくといいですね。伊東の駅はどうか、大きな看板があってああやっているなと思いました。それでは自己紹介を皮切りに、①日本のジオパーク②安定大地と変動帯③日本海の拡大④世界の巨大地震⑤2011年東北地方太平洋沖地震⑥西南日本の地震予測⑦世界のジオパークを目指して一以上の目次に従って進めてまいります。

私は国際高等研究所をやっている、その中に天体人研究会があります。天文学、地文学、人文学を融合して次の世代のためにどんな学問のタネが

あるかというようなことを議論しています。

地文学はジオパークの運動に関係があります。明治初期の日本の教科書は「日本地文学」でした。小学校の時から地球と人のことを学びましたが今は地学です。これは米国の思想で地理を学ぶ。「文」が抜けてしまいました。その地文学をやっていたらこうというのがジオパークの一つの大きな趣旨で、人と地球のかかわりを学び、楽しんでいただく。ですからジオパークは楽しいものでなくてはならない。「面白かったね」「もう一度来たいね」と思ってもらう。そしてそれを地域の経済活動、振興に役立てる。大地を利用することが大事なポイントとなります。

ジオ多様性研究会というのもあります。大地がいかに多様であるかを研究しています。ジオは英語の大地を表す接頭語ですが、4年前に日本委員会を設立した際、ジオパークという言葉はどうするかで大論争になりました。大地の公園いや地質公園などと議論し、地質だけじゃないということで、そのまま片仮名のジオパークになりました。こんな時片仮名は便利ですね。このジオパークが広く認知され、「広辞苑」の次の改訂時には載るようにしたいと思っています。うれしいことに最近ある会社の電子辞書に入りました。ジオを引くと大地を表す接頭語とちゃんと書いてあります。ジオパークが広辞苑に登場するかどうか、ひとえに皆さま方の活動にかかっているのです。その基本は見る、食べる、学ぶであります。

国内25カ所、動き回る大地に関係

日本のジオパークは現在25カ所になりました。北から南まで、準会員などとして用意中のところもあります。室戸ジオパークで開催した今年の全

国大会は3回目ということもあってお祭り騒ぎで大いに盛り上がり、楽しいものになってきました。八峰白神や室戸など各地のジオガイドの方々の工夫を凝らしたガイドぶりに驚きました。例えば室戸の名ガイドさんはプレートが潜りこんでいく様子や海底地形を腕カバーを使い、しわを作って説明してくれました。これを見た専門家が「これは活断層がずれてきたしわだ」「いやずれた面がないから地層だ」などと論争を始め今なお続いています。ここで大事なことは分からないことは分からないという解説でいいのです。相手が子供たちだったら「大きくなって研究者になって解明してください」という説明でいいのです。ガイドさんが無理やり説明する必要はありません。

先ほどジオパークは見る、食べる、学ぶと申し上げましたが、有珠山の例を紹介しましょう。2000年の噴火の跡を見て、火山の恵みを受け豊かな大地で実ったリンゴやブドウを自分でもいで食べる。学ぶでは昭和新山がどんどん高くなっていくという火山の成長を示すスケッチ、砂防ダムに残る壊れたアパートを見る。法律的には砂防ダムの中に建物を置くことはできませんが、地元の人たちが災害の跡を見て学んでほしいと国に働きかけたことが功を奏し、残すことができました。火山マイスターと呼ばれる人たちがガイドしてくれています。

島原半島ジオパークでも猛烈な火砕流が襲った学校を、文部科学省の建前論を乗り越えて住民パワーで認めさせ残しています。糸魚川ジオパークはユーラシアプレートと北米プレートという大きな2つのプレートが出合い、押し合いをしているところです。大地の動きを見ることができます。この糸魚川では俳句大会をやりました。俳句を詠む人は現場でそのの現在を一生懸命に見て、納得するまで観察して五七五にまとめます。ジオパークと俳句は共通するところがあるので俳句大会をお勧めします。

それから国内6番目の世界ジオパークを目指して申請しましたが、見送りとなっている隠岐ジオパークにはシベリアからの季節風が削り落とした風食の高い崖（がけ）があります。伊豆半島にも崖はたくさんありますが、比べものにならない。高さ257m、日本一です。氷の時代を生き延びた隠岐サンショウウオ、30億年前の鉱物を含む岩など貴重なものがあります。ユネスコの審査員は「素晴らしい所だ」と言って帰りましたが、ユネスコは今、世界遺産と同じように正式プロジェクトに取り込もうとして慎重になっていますので見

送りとなりました。来年あたりは世界歴史遺産、自然遺産と同じように取り組むことになろうかと思えます。ジオパークの場合は国際条約に基づく世界遺産とは違い、条約ができていません。そのためいろいろな動きがあります。私は「隠岐は活断層がなく地震が起きない、火山もないという日本では珍しい場所。そういうところもぜひ加えてほしい」とお願いしました。日本のジオパーク25カ所を並べてみると、隠岐をのぞいて活火山やプレート境界、活断層が絡んでいます。動き回る大地の変動に関係があることが分かります。

災害から学び、伝えるのもジオの役割

ユネスコのジオパーク国際会議は2年に1回行われ、日本では5月に島原半島ジオパークで開かれました。秋篠宮ご夫妻が出席され、「ジオパークが大変面白い」とおっしゃっていましたので、伊豆半島にもお招きする機会をつくってください。この国際会議の大きな出来事は最終日にまとまった島原宣言です。日本で巨大地震が起きたことを踏まえ、ジオパークの役割の中に災害、自然災害を学ぶことを取り込みました。災害というキーワードが初めて入ったのです。動き回る大地で災害から学び、伝えるという機能もジオパークにはある。最大の成果だと思います。

西欧の人たちは大陸の安定した古い地質を持ってきてジオパークとみなしていますから動き回る大地、変動帯の日本とは異なります。例えば日本と同じ島国のイギリスは一番高い山でも1000mちょっとでなだらかです。フィンランド・ヘルシンキの空港は360度見渡しても真っ平で岩板の上にある。スウェーデンのストックホルムは町中岩ばかり、だからダイナマイトが必要となりノーベル賞が生まれたのです。オーストラリア・シドニーにはザ・ロックスという文字通り岩の町があります。日本の平地は崩れ落ちた土砂が雨風に運ばれて河口部にたまって発達するので大きな違いがあります。シルクロードを例に取り上げますが、動き回る大地では活断層伝いに道ができます。深い所まで割れてずれた活断層から水が湧き出し、オアシスができます。

大陸との間に海を持つ島国

日本列島を理解するポイントはどうやって日本海が生まれたか、その成り立ちにあります。日本列島が生まれるきっかけは4300万年前の大変動で、

インド大陸が北上してユーラシア大陸とぶつかり、北の方に向かっていた太平洋プレートは西の方に動くようになった。その後、太平洋プレートが南の方から島々を運んできて陸地が成長していきました。一方で太平洋プレートはユーラシア大陸の下に潜り込むようになって湖ができ、広がっていった。そして1600万年前に一気に開いて日本海が生まれました。西南日本と東北日本が「く」の字型になって押し合った接点が糸魚川・静岡構造線です。隆起したのがフォッサマグナ地域と呼ばれています。それが糸魚川ジオパークであり、伊豆半島もその近くにあります。2万年前ぐらいの氷期の時には一面に凍りつき、大陸と島（日本列島）が陸続きとなりました。北からはマンモスが、南からはナウマンゾウが土を求めてやってきて、旧石器人も食べるためナウマンゾウを追ってやってきた。ざっとこんな歴史になります。ですから日本海側、北の方の地層が古く、南側は新しい地層ということが出来ます。そのくっついていった跡を示す付加体（海洋の堆積物）がぎゅうぎゅうに圧縮され、きれいな縞（しま）状となっているのを見ることも出来ます。そして大陸との間に海を持っている島国は日本しかありません。

3・11のデータを巨大地震解明に生かせ

世界の巨大地震はどんなものか、「理科年表」をみるといっぱい出てきますが、この約100年間は記録も充実していて8回を数えます。起きた場所は太平洋の周りに7つ、インド洋に1つ。大きな地震が起こるところで次々と起きています。3・11の東北地方太平洋沖地震は仙台沖から岩板が割れ始め、約1秒2^{キロ}の速さで割れ目が走っていきます。南北に500^{キロ}、東西に200^{キロ}割れました。東北の方が太平洋の下に、海底にのし上がる格好で動いたわけです。緊急地震速報が出ました。S波がまだ陸地に届いていない時に、陸地が揺れる前に予報が出せた。各地の地震計の記録を並べてみますと、仙台から揺れ始め、しかもいくつもの大きな地震が次々と起こったということが分かります。ビルが壊れるようなところで正確な記録が取れていることは日本の技術の優れたところでもあります。長周期地震の記録もあります。これらを世界中の研究者が巨大地震の正体を知るために活用しています。前兆現象の記録もあります。若い学者たちがしっかり研究して前兆現象が起きる仕組みを解き明かしてくれると、予報の大きな前進につながるものと期待しています。

群発地震も誘発されました。伊豆半島でもたくさん起きています。マグマがたまっていて活動していることを示しています。伊豆半島の群発地震を選んで時系列でみると、3月11日から一斉に始まっている。富士山も15日から始まり、少々緊張しましたが、今回は見送りという感じで収まりました。富士山は10^{キロ}ほど下に大きなマグマだまりがあっても震えています。あと20、30年の間に噴火するのではないかと私は思っています。伊豆東部火山群は地元の皆さんにご理解をいただき、昨年レベル1指定を受けました。レベル1というのは活火山であっても平生は静かな山という指定ですが、大室山とか小室山といった単成火山群の場所ですから、またどこからか出てくる可能性があります。そういうことを早く分かっていたいただくための指定です。これまでは「そんなこと言ってくれるな」という意見が勝っていたからできなかったのしょうけれど、指定を受け入れてくださったということはジオパーク運動の一つのおかげであり、ありがたいと思っています。

繰り返す西南日本は活動期、噴火も

東北の大震災では陸地側が沈下し海底が隆起していますが、西南日本の場合は室戸岬、潮岬、御前崎といずれもプレート境界に近い所にあります。隆起する陸地を持っている。今は沈下していますが地震の時に隆起してそこに津波が来ます。沈下した仙台などに相当するのは名古屋、大阪、神戸になります。火山もどこかが噴火し、その影響も受けるでしょう。

日本列島は4枚のプレートが集まってきて押し合いをしていますので縮んでいきます。ぐーと縮んでまた元に戻るのですが、戻る際に地震を伴います。ですから今縮み続けているところが次に巨大地震を起こしながら戻る場所であると言えます。その結果、日本列島はしわだらけになり、太平洋の底から見たら1万^{キロ}級の大山脈が見えます。世界で一番立派な山脈は日本列島ということです。活火山はこの前までは108でしたが、110に増えました。富士山の下には先ほど申し上げたようにマグマがあります。同じマグマだまりから出てきた箱根が爆発してなくなり、愛鷹連峰は上が飛びました。これから富士山が爆発するという段階になっています。火山灰が関東を埋め、分厚い堆積層を作ることになります。

800年代、貞観の時代の大地震活動が知られるようになりましたが、このころの国家公務員のト

ップにいたのが菅原道真で、初めて地震というカタログを編集してくれました。地震がたくさん起こって大変だったことを意味しています。富士山の青木ヶ原溶岩台地を作った大噴火もこの時代です。江戸時代の人には現代に匹敵するような記録を残してくれています。

こうした歴史をひも解いていくと、100年に1度、西南日本の大地震の繰り返しが浮かび上がってきます。活動期と静穏期が交互にあり、現在は神戸の地震以来、活動期に入っているわけです。活断層性の上下運動で盆地や平野ができていますから西日本の大都市の下で地震、大きな地震が起きるといふ法則性が見てとれます。

ジオパークの全国大会を開いた室戸の港では漁師が昔から水深を測っています。港が浅くなると船が出入りできなくなりますから。宝永の地震で1.8^{メートル}、安政で1.2^{メートル}、昭和で1.15^{メートル}上がっている。沈んでいって一定のラインまでいったら次は上がる。予測すると2038年、南海トラフの次の巨大地震はこのころ起こるといふことになります。

伊豆半島にもいっぱい地震が発生します。小さい地震が起こる場所ですが、北伊豆地震を起こした活断層は2回の大地震が記録されています。800年代と1930年です。新しい丹那トンネルを掘る時に「断層がずれたらどうしよう」という話になりましたが、「まだ数百年先だろう」と予測できたわけです。

日本ジオパーク委員会ができてからずっと4年間活動してきました。伊豆半島ジオパークは「南から来た火山のおくりもの」がテーマで、このキャッチコピーは委員会で大受けでした。静岡大学の小山先生が一生懸命いろいろ準備して手伝ってくれた成果だと思います。今日本でジオパークに参加しているのは1725市町村のうち118市町村です。世界ジオパークは隠岐が保留となっていますが、26カ国92地域、ちょっと増えて95になったかもしれません。ユネスコのホームページを見ていただくとジオパークのことがいろいろ書いてあります。「ジオパーク・アンド・エデュケーション」といった具合に。ここが大事でして教育などの事例を挙げてくれています。子供の教育にジオパークをどう生かしていくかのモデルを推薦しています。ユネスコがサインを送っているわけですから、これを目標としていけば合格するであろうと期待しています。

理念は地球との調和ある共存

日本の人口予測は今がピークで、100年かかって明治の初期に戻るとされています。しかも都市は複雑化していきますから災害の規模は減らない。そこにジオパーク構想がどうかかわっていくのか、委員会の中に千年構想委員会というのがありますが、千年の歴史と千年先のことを考えて、この10年を考えようと呼びかけています。京都・竜安寺には「知足」の蹲踞（つくばい＝茶庭の手水鉢）があります。「もったいない精神」はマータイさんが広めてくれました。こういう精神もジオパークの文化に取り入れていきたいと思っています。私は俳句をやりますが、京大では「地球社会の調和ある共存」という大学の基本理念を持ち、「椽（とち）の実を熊に残して拾いけり」と学生たちに教えてきました。

これからのジオパークの活動に期待することをまとめてきました。

- 最初の目標であったジオという言葉を日本語に導入する目的は少し達成できた。
- 地球のことを真剣に学び、地球を理解し、地球環境を考え、地球から賜る恩恵に感謝して暮らす人々が次の世代にますます増えてくることを私は望む。
- 日本列島は多様なジオの要素でできている。資源も、エネルギーも、豊かな自然環境も持っている。多様な大地を持つ日本列島はどこをとってもジオパークの資格がある。
- 日本列島に生まれ育った人々が変動帯の特徴を理解して、災害に強い暮らしの知恵を学び伝えるためにジオパークの見る、食べる、学ぶの役目を活用してほしい。
- 大地を活用する仕組みをその地域の人々が整備して、これからも優れたジオパークをこの日本列島に生み出してほしい。

＜ 略 歴 ＞

■尾池 和夫氏(おいけ・かずお)

専門は地震学。京都大学総長(2003～08年)などを経て、08年日本ジオパーク委員会委員長。09年財団法人国際高等研究所所長。12年東電福島原子力発電所における事故調査・検証委員会委員。1940年東京都出身。

パネル
討論

「ジオパークで 伊豆の経済を活性化」



〈パネリスト〉

今井ひろこ氏 兵庫県香美町ジオパーク推進員
永瀬 巖氏 伊豆急行代表取締役社長
日吉 直人氏 いたう漁業協同組合代表理事専務
鈴木 雄介氏 伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員

〈コーディネーター〉

青山 茂氏 サンプル21懇話会TESS研究員(シード取締役副社長)

◆青山 尾池先生からジオパークは楽しくなきゃいけない、大地の恵みを見る、食べる、学ぶ場所だというお話をいただきました。ジオの構成資産を生かし地域の活性化に結び付けていくことも大事だともおっしゃっていました。伊豆半島ジオパークはこれから世界認定に向けて準備を整え、厳しい審査をクリアしなければなりません。そのためには何をしていけばいいのか、一巡目はそれぞれの立場で取り組んでいることを紹介していただきます。最初に専任研究員の鈴木さんをお願いします。

学術的裏打ちの素材提供 伊豆半島のファンを増やす

◆鈴木 まず伊豆半島ジオパークとはから。伊豆半島は南の海からやってきた火山島です。100万年より前は南の海にあった火山島がわずかに100万年前に本州に衝突して20万年前に現在の伊豆半島が成立しました。非常に新しい時代の大地で今も活動が続き、さまざまな恵みをもたらせてくれています。貴重な地質やきれいな景色、火山の島だから地熱が高くたくさんの温泉がわき、海の幸も豊富です。ジオパークというと地質学パークの

イメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、このジオパークの取り組みは我々の地域社会の足元にある大地、そこから派生しているいろいろなものを資産にして生かしていく、あるいは保全していくものです。伊豆半島の大地を通じて伊豆という地域を知ってもらう、楽しんでもらう、またその先にある地球全体を知ってもらう。そういう場所を作りたいというのがジオパークです。

観光的などところに着目すると地域のファンを作りたい。売り物は地域そのものですから、地域の良さをちゃんとストーリーを持って説明し、ビジターにリピーターになっていただく。そのためにはガイドさんが必要です。高校生には地域の良い所を知ってもらい、観光業の後継者やUターンにもつなげていきたい。「海と山がある」ではなくて「すごい海とすごい山がある」と胸が張れるようになり、「ここで暮らしてお客さんにこれが見せたい」となることを望んでいます。ツアー開発とか関連商品の開発なども少しずつボトムアップしてきていますので、ジオパーク側も学術的に裏打ちされた素材の提供を進めていきたい。うまくコーディネートして伊豆半島のファンを増やしていくことが課題だと思っています。

◆青山 日吉さんは漁協の立場で水産業の振興に

尽力の一方、伊東は観光都市ですから魚の消費拡大やダイビングなどの事業展開もされています。ジオパークの貴重な構成資産でもある海の活用についてお聞かせください。

海中の地形はジオそのもの 定置網やキンメ漁は大地の恵み

◆日吉 私たち漁協は30年ほど前からダイビング事業を手掛けています。



日吉直人氏

川奈港、富戸港、八幡野港で約30ポイントあり、漁協の基幹事業になっています。漁場でもある相模湾は水深1300

で駿河湾に次いで深く、急激に落ち込む海底地形をしています。深い海では栄養素の高い濃い水がわき上がり、植物プランクトンが発生し、それが魚の増殖につながっていくというリンクを生んでいます。川奈港は小室山の溶岩流、城ヶ崎海岸とか富戸、八幡野は大室山の溶岩流でできています。海に潜ると溶岩流の流れ込んだ状態がよく分かります。潮流や波で削られた場所がありますが、陸（おか）と違って植物が生えない、土がない、食べ物がありませんから原形をとどめている。富戸にはポットホールがありますし、城ヶ崎海岸の俎（まないた）岩と富戸港の間を行き来しているコブダイはダイバーの人気者です。黒潮に乗ってカラフルな魚が回遊してきますし、温暖化の影響で越冬するクマノミもいます。アオリイカの産卵はダイバーに人気ですが、富戸漁港では40年ほど前からアオリイカの産卵漁礁を設置して資源の増殖と両立させています。

伊豆半島のダイビングは沼津の大瀬崎から始まり西伊豆、南伊豆、東伊豆、伊東と多彩で本土では一番のダイビングスポットです。ライバルは沖繩と南太平洋の島々ですが、飛行機代が安くなったせいかダイバーの減少が気になります。そこで漁師自らが腕を振るう海鮮バーベキューや子供たちを対象にしたシュノーケル事業を始めました。もちろん海底でジオを見ながら学ぶというテーマでやっています。ジオパーク構想が発表された時には漁協の魚レストラン「波止場」でジオ丼を売り出しました。溶岩流が流れ込んだ漁場で捕れた魚だけを入れた丼です。

組合員の中には海の上、船から溶岩の流れた跡を間近に見るジオの遊覧に興味を持つ仲間がいます。遊覧船はありますが、ちょっと沖を航行しているのが迫力に欠けるようです。城ヶ崎海岸はもちろん、川奈ホテル沖からの富士山が絶景でして私も「こんな景色があるのか」と驚きました。

私の本職は定置網です。網はどこにでも張っているのではなくて、海底地形の谷の尾根に張っています。日が暮れて捕食にやって来る魚を沖に帰る時に捕れるという漁法で、海底地形と漁業が一体化している。キンメ漁も同じで水深300前後の海底火山の尾根のところで漁をしています。

◆青山 伊豆半島の交通インフラとして半世紀、伊豆の観光をけん引してきた伊豆急行の永瀬さんにお伺いします。伊豆急の電車に乗りましたらジオサイトの写真がいっぱい張ってありました。ジオの取り組みは既に始まっているようですが、今後伊豆半島全体、市町、地域のストーリーをどう作っていくか、それをどう見せていくかということが必要になりますね。

成功した細野高原海ススキ 沿線の構成資産生かしたい

◆永瀬 伊豆半島ジオパークにはジオサイトが108カ所あります。伊豆急行の沿線で行きますと、伊東市では大室山、伊豆高原の池地区、城ヶ崎海岸、東伊豆に入って大川の石丁場（石切り場）跡、稲取の細野高原、はさみ石、私どもで今年作りました江戸城築城石ふるさと広場、河津町の来宮神社の大クス、下田に入ると伊豆石を使ったいろいろな建物、サンドスキー場、竜宮窟、南伊豆町・石廊崎の石室（いろう）神社、松崎町の石部の棚田、西伊豆では三四郎島といったところです。

テーマの一つが伊豆石です。江戸城築城石ふるさと広場は綱による石曳きやろくろの体験コーナーを設置しました。本物の城石を使っての石曳きはここだけ。重さが3・4トあり、5、6人でやっと曳けるのですが、人数が足りない時は観光客同士が声を掛け合って一緒に曳いてみようという仕掛けを取り入れています。伊豆大川の石丁場には江戸城築城時、約400年前の石を切り出し現場の雰囲気がよく残っています。下田の伊豆石は築城石よりも少し軟らかい石が家庭用の壁とかに使われました。下田には伊豆石を使った建物がたくさんあります。

海ススキの細野高原は後で詳しく紹介したいと思いますが、ジオスポットのフォトコンテストの写真を展示したフォトトレインにはこの海ススキの写真を入れました。シーズンには首都圏な

どから多くのお客さんが訪れ、地元東伊豆の町の方もてんやわんやするぐらい活性化したという成功例です。

今後もう少し力を入れていきたいと思うのは来宮神社の大クス、樹齢千年以上、高さ24m、幹回り14mで、私も最初に行った時は鳥肌が立つような感動を覚えました。下田の竜宮窟、石廊崎の灯台の先に立つ石室神社などがあり、伊東・池盆地の景観もいいですね。和やかな里山の風景は癒やされる光景だと思います。

◆青山 今井さんには兵庫県の山陰側、香美町からお越しいただきました。先行地域でもある山陰海岸ジオパークのことで、先輩から見た伊豆半島ジオパークについてお話いただけますか。

列島誕生の爪痕残る日本海 欠かせない体験プログラム

◆今井 朝5時に出てこちらに着いたのが11時35



今井ひろこ氏

分。家を出る時は時雨（しぐ）れていましたが、南に下りてくるときれいな青空が広がり太陽の恵みがいっぱい。こちらの方って幸せだなあと思

ました。山陰海岸ジオパークは兵庫、鳥取、京都の3府県にまたがる広域ジオパークで3市3町からなります。テーマは日本海形成における地形、地質、風土と人々の暮らしで、大陸の一部だった日本が日本海ができたことによって大陸から離れ、日本列島となっていった爪跡がたくさん残っていることで認定されました。

山陰海岸には海と山両方の美しい景観があり、コウノトリを代表とする多様な生き物が生息し、約3000種をそろえた植物園があります。ジオパークになってからレジャーも随分見直されてきました。ポールを持って歩くノルディックウォークをはじめ、雪上を西洋かんじきを履いて歩くスノーシューウォーク、海ではスキューバダイビング、シーカヤックも急速に増えてきました。シーカヤックは安全装備とリーダーがいれば子供も安心して楽しめるということで、今夏は宿が取れないということもあったようです。ジオパークとその体験プランというのは戦略的に欠かせないと思います。

生活・文化の面では今ズワイガニ漁が最盛期ですが、カニの加工が盛んで加工屋さんがたくさんあります。有名な鳥取砂丘の飛砂対策で導入されたのがラッキョウ。ラッキョウの根が砂を抑えてくれるのです。高級な織物・丹後ちりめんの産地であり、生活と文化に深くかかわっています。大地の恵み温泉もたくさんあります。90何度の熱々から沸かし直しが必要なものまでいろいろあります。グルメではマツバガニ。新鮮な割と大きなものだと1万円を超えますが、大変おいしい。関西の人はフグかカニを食べないと年が越せないということにぎわいます。有名な但馬牛もいます。歩いているのは牛（うし）、お肉になるのは牛（ぎゅう）と呼ぶようです。但馬牛は黒毛和牛で、全国の黒毛和牛の99.9%に但馬牛のDNAが入っているといわれます。魚もマダイやカレイなど豊富です。詳しいことは山陰海岸ジオパーク丸ごと体験マップをご覧ください。ジオの恵みを理由を付けて説明しています。これは専任の若い研究員が一から作ったものです。このように研究者と住民、役場が一体となってジオパークの普及・拡大に取り組んでいます。構成する市町それぞれの独自プランもありますし、地域の人たちの活動もあちこちで起きています。噴火してきたいろんな面白いアイデアを私のようなコーディネーターが役場と付けたり、人と人をマッチングさせたりしています。

◆青山 山陰海岸ではジオパーク認定以降、さまざまな体験プログラムが盛んになったということですが、日吉さんはどのように受け止めましたか。

ガイド育て発信力強化 陸も海もこなせるように

◆日吉 ジオ井からお話します。「波止場」という魚レストランは撤退したチェーン店を活用しました。元々漁協が貸していたもので、近年本格的な板場を持つ旅館が減り魚価の低迷を招いていたものですから、もう一度地魚を観光資源に出来ないかということで始めました。ジオ井の値段はその日の水揚げ状況によって異なります。でも一番初めに売り切れます。今困っているのは「ジオ井って何だ」と聞かれてもうまく説明できないことです。ジオに関する知識をもっと学んで発信力を強めたいと思っています。

ダイビングのことで今井さんにお聞きしたいことがあります。水中に限定されるダイビングガイドですが、20代の若手が多い。この人たちをちゃんとトレーニングしてもらって水中ジオガイドに育てられないかと思っているのですが。

◆今井 伊豆に比べれば山陰海岸はお店もガイドさんも少ないのが現状です。ダイバーさんにもいろいろあって、もちろん魚が好きな方が主流ですが、地形やアドベンチャーが好きな方も結構いらっしゃいます。そういうガイドができるダイバーを募るなど特色を打ち出す。手っ取り早いのはジオパークの先生にダイビングのライセンスを取っていただくこと。そして陸上と海中、両方のガイドができるようになるという。海が荒れていて入れない時に今日は中止ではなく陸上のジオガイドに切り替える。もう一度伊豆を訪れるというリピート化につながるとは思いませんか。

付け足しですが、水中ガイドさんはきちんと料金をいただいてガイドしているのに対し、陸はボランティア、有料でもごく少額です。本格的なガイドさんであればお金をいただいてもいいのではないかと思います。知的好奇心は若い人に限らず、おじいちゃんおばあちゃんも持っていますから。ぜひお金に換えていきましょう。

◆青山 細野高原は後ほどおっしゃっていた永瀬さんのところでは新しいサービス、商品、イベントなどを通したジオパークの構成資産の活用に乗出していると思えます。

市町の境を越えた取り組み 地域大好き人間を増やそう

◆永瀬 「黄金と紺碧の競演 絶景海すすき」をキャッチコピーにした細野高原の例では東伊豆町とコラボレーションできたことです。電車は約1カ月、このポスターの色とし、親会社の東急電鉄



永瀬 巖氏

の駅とか車内にも張らせていただいた。ポスターの出来、集中告知の宣伝効果などが実り、10月1カ月で町の3000人前後という予想を大きく上回る1万人を超える方が訪れました。現地ではジオガイドさんが2、3人いて天城から流れ出た溶岩流がこういう地形をつくったなど大地や歴史を説明してくれました。見た目の素晴らしさと歴史的な学びが感動をより高めたということで、ガイドさんの重要性を改めて認識しました。

かつての伊豆を紹介するチラシ、パンフレットは温泉とお刺身が多く、市町で分断されていまし

た。資料として用意したパンフレットを見ていただくと分かりますが、石造物や石切り場を前面に出し、歴史遺産、自然遺産、食文化などを市町の境界を越えた歴史街道の回廊という形で作りました。第一弾は東伊豆から河津までですが、次は河津から下田、下田から南伊豆、そして東伊豆から伊東という展開を考えています。

◆青山 ジオの構成資産を活用して経済価値を生み出していく視点、切り口として感動とか好奇心ということが拳がりましたが、鈴木さんから見た切り口は。

◆鈴木 第一は「地域大好きな人」をたくさん増やすことです。地域のことを語れる人がいっぱいいる地域は面白い所です。その上で大切なことがジオパークのストーリー。歴史街道もそうですが、伊豆半島を南から北へという切り口もある。ストーリーをうまく作っていく、つなぎ合わせることでできれば食べたり、遊んだり、学んだりといったことに結びつきます。すぐに使えるのは伊豆半島だからこそ見えるストーリーで観光資源を有機的につなげていくことではないでしょうか。

長期的には子供たちや地域の人に知ってもらい、地域から地域の面白い所を発掘してもらいたいと思います。子供たちがそういうことを知っていれば、いったん伊豆から出たとしても、また伊豆に戻って来て伊豆のために働いてくれるきっかけになるでしょう。

◆青山 伊豆半島にも今井さんのような方を増やしたいと思いますが、どうしたら増やせるか、民間と行政のマッチング策など地域として整えるべきことを聞かせてください。

出前講座でジオに巻き込む 資産がバラバラ展示の伊豆半島

◆今井 この仕事を始めてまだ2年です。推進員になるまではジオパークといたら石の鑑定をする人だと思っていました。嫁いできて家業の民宿を覚えることに必死で、お客さんに地域のことを尋ねられても「嫁いできたばかりでよく分かりません」という状態が続いていました。推進員になっていろいろ調べていくと伝えることが楽しい、お客さんが私の話を聞きにまた泊まりに来てくれることがうれしくて。他の人にもジオパークや地域を知る楽しさを伝えるようになりました。

香美町は7年前に合併してできた町です。隔たりや壁があります。そんな中でのジオパークですから海の人山の人山も全然分からないし、なかなか同じテーブルに座ってくれない。そんなところからスタートしましたので、香美町でジオパーク

が本格化したのは世界認定の年ぐらいからです。最初に手掛けたのが「10人集まったら」の出前講座。でも地質の話では授業と同じで退屈になりますから「地域のことを皆で知ろう」を突破口にしました。すると「こんなこと知っているよ」という方が出始めました。それらを集めてパンフレットを作ったり、次の出前講座のタネにしたりしました。

地域起こしの戦略になると、まず出て来るのが食べ物です。発想しやすいからでしょう。短絡的ですがそれでいいと思います、食欲は人間の欲そのものですから。それでご当地ものを作ろうとした時にネックになるのが役員、リーダーたちの任期です。任期が終わったらしぼんでしまう。ですから一つの企画に3～5年のビジョンを立て、その商品をどこに持っていくのかなど目標を明確にして活動する。ジオパークに関係ないという人も巻き込む。お茶を飲みながらざっくばらんに話すジオカフェ、お酒が入ればジオバーということで。新聞社も積極的に活用する。地域のことを取り上げたがっていますから。マスコミ向けリリースの書き方などの勉強会も30、40代を対象に開きました。熱心なお父さんの姿を見て子供が地域学習を始める。いい循環ができました。香美町ではアラフォー、アラサーの人たちがどんどん動いて地域のことをやっている。元気なことがジオパークの地域としてのゴールかなと思います。

◆青山 伊豆半島ジオパークは2015年の世界ジオパークネットワークへの加盟認定を目指しています。どういうことに取り組んでいかなければならないか、鈴木さんをお願いします。

◆鈴木 認定に向けてのマニュアルに相当するものに自己評価表があります。日本ジオパーク委員会のホームページにいくと誰でも見られるようになっています。尾池先生からユネスコがナーバ



鈴木雄介氏

スになり、ハードルが上がっているという指摘がありました。それも踏まえてガイドラインとか自己評価表を見ていくとどういうことかについてお話ししたいと思います。これからのことですので事務局のスタッフとしては話しにくいところがありますが、専任研究員の立場ということでお願いします。

計画はマーケティングだけでなく、伊豆半島全体の自然保全をどうするか、エコにどういくのか、教育は、地域振興の観光デザインは、あるいは防災への取り組みはと地域全体のビジョンを求めています。中長期的な計画が必要ですが、現状はジオパークでそれらをやりますとは言い切れません。例えばビジターのための拠点施設が必要です。今は素晴らしい展示物がバラバラとあちこちに置いてある状態で、ストーリー立てて有機的に結びついていません。ビジターセンターみたいなものを作ってナマの情報を扱うネットワークを構築することが重要です。マーケティング戦略も大切です。そういったことは日本ジオパーク認定時に委員会から指摘の文章をもらっています。課題がいっぱい書いてあり、今年度中にアクションプランを作ることになっています。首長さんたちにも見ていただいてオーソライズされたものを委員会に提出することになりますが、どのくらいのことで盛り込めるか、今後の活動に大きくかかわってきます。

◆青山 漁協及び日吉さんの立場ではどう動いていきますか。

否めない情報発信の遅れ ベクトル一つにして頑張る

◆日吉 相模湾は日本で2番目に深い湾で、1番が駿河湾、3番目が富山湾です。相模湾と富山湾は定置銀座と言われていますが、定置網を観光資源に生かしているモデルケースが富山湾の氷見です。漁協が運営している伊東の魚市場は氷見に匹敵するぐらいの大型定置網の水揚げがあるのに情報発信で後れを取っている。漁協としても定置網をどういうところに設置して漁獲しているかを子供たちや一般の観光客に知ってもらいたいと考えています。キンメダイも下田に揚がる小笠原の方のキンメと、漁協の組合員が稲取沖の漁場で操業している日戻りキンメがある。漁法的にはいずれも海底地形を利用したものですから、ジオに絡めて発信できるのではないかと思います。

◆青山 永瀬さんにお伺いします。伊豆半島はまだ展示物がバラバラという指摘がありましたが、つないでいくのが伊豆急行さんの役割とも言えます。また経済価値を生み出すための構成資産の活用ということではマーケティングや広報などに力を貸す、支援する立場でもありますね。

◆永瀬 108カ所のジオサイトを取り上げたフォトトレインがそうですし、伊豆歴史街道も伊東市から松崎町まで首長さんや観光協会の方たちと話し合いながら、もっともっと伊豆の自然遺産を取

り上げようと進めています。先日も旅番組をよくやってくれるテレビ東京の社長さんをお訪ねし、新しい試みとして歴史街道とかに取り組んでいることを申し上げましたら、大変興味を示していただきました。そのうち温泉や刺し身だけじゃなくてちょっと変わった伊豆が、かなりジオに近い伊豆が番組で出て来るのではないかと期待しています。そういう意味では私どものグループネットワークとか、JRさんとの関係、市町と皆がベクトルを一つにして頑張っていきたいと思っています。

◆**青山** ジオパークの認知度を上げることが大きな課題になっています。先行地域の三陸海岸ジオパークはどのような発展を図り、経済効果をどう高めていくか、その中で今井さんはこれからどう取り組み、行動していくのか。後発の伊豆半島には参考になりますので、率直なご意見をお聞かせください。



青山 茂氏

3大学が絡む山陰海岸 観光先進地の底力に期待

◆**今井** 山陰海岸ジオパークは東京から遠い。伊豆半島は東京圏から近く、一大観光地です。その伊豆半島が住民を巻き込んでブレイクしたら、日本全体のジオパークの底上げに広がっていく。それができるのがここ伊豆半島です。世界ジオパークになるための要件にしても看板や外国人のお客様の受け入れなどで経験・実績があり、ガイドさんを含め人材も豊富です。世界ジオパークになってくれたらどれだけ励みになるか、大いに期待しています。

先行地には成功例も失敗例も腐るほどあります。民間の方もいろんなジオパークに出掛けて地元の方と話し合われるといいでしょう。成功事例必ずしも成功ならずということもありますし、失敗事例でも視点を変えることで成功を導き出すことができます。そのためには助け合えるネットワークが持っているといいですね。パンフレット一つとっても利用しやすいとか読みやすい、分かりやすいとかの工夫は経験やお客様の反応をお互いに交換し合うことでより良いものになります。この「伊豆ジオマップ」がいい例です。

地域活性化、経済効果を生むためにはマーケティングが必要で、自然の保全や教育もある程度お金に余裕がないとできません。そのために私たちの推進協議会の中に経済学、それも地域、中小企業の専門家の先生がいらっしゃいます。私たちも授業を受けています。山陰海岸ジオパークには大学が複数からんでいます。鳥取大学、京都大学、兵庫県立大がかかわっています。兵庫県北部には大学がありませんが、地域振興をテーマにした大学院が設置されることになっています。世界認定の継続審査の要件の一つのようですが、ジオパークをテーマにした大学院になります。こうしたことも加えて、地域の宝を生かしお金を稼いでいくことにつなげたいと思っています。既に観光地の地位を確立している伊豆半島から学ぶことも多いので、今後連携を深めていけたらと考えております。

◆**青山** これまでのジオパークのお話を通じて興味深かったのは構成資産の保全も地域の活性化も地域の継続的発展も経済活動を伴っていなければ実行・実現は困難だということです。そこには企業のノウハウもかかわってきますし、定置網やキンメ漁にみる大地の恵みにはストーリーがあり偽物は何もない。

大地を生かし切る、歴史も文化も人も食も自然も生かし切るということは究極の地域活性化ではないでしょうか。ジオパークの世界認定、ジオパークを使った地域活性化に向けて活動していただきたいと思います。

〈略 歴〉

〈パネリスト〉

■今井ひろこ さん (いまい・ひろこ)

民間企業勤務を経て、2007年環境教育のNPO法人を設立。10年兵庫県香美町ジオパーク推進員。ジオパークを地域活性化に活用するための講演会をジオパークを目指す自治体などを対象に2年間で約70回開催。1968年大阪市出身。

■永瀬 巖 氏 (ながせ・いわお)

1979年東京急行電鉄入社。財務戦略推進本部、主計部、内部統制室、グループ事業本部で部長、副本部長などを務め、2012年4月伊豆急行代表取締役社長。同時に伊豆急ホールディングス代表取締役専務に就任。1954年横浜市出身。

■日吉 直人 氏 (ひよし・なおひと)

外車販売などに携わった後、1995年伊東市漁協富戸支所勤務。理事を経て2010年伊東市漁協と網代港漁協が合併した「いとう漁業協同組合」代表理事専務。県定置漁業協会会長、県海区漁業調整委員を務める。1957年伊東市出身。

■鈴木 雄介 氏 (すずき・ゆうすけ)

静岡大学理学部で小山真人研究室(現伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問)に所属し、富士山の火山地質を研究した。測量、地質調査を行う民間企業を経て、2011年現職。1977年三島市出身。

〈コーディネーター〉

■青山 茂 氏 (あおやま・しげる)

オリエンタルランドを経て、現在シード取締役副社長。県内外の企業、自治体のプロジェクトプロデュースを手掛ける。ふじのくにしずおか観光振興アドバイザーはじめ県、静岡市、沼津市などの委員を務める。1952年栃木県出身。

原田監督「わが母の記」語る 伊豆はロケの宝庫「しろばんば」で世界発信を構想

県東部の活性化策を提言する静岡新聞社・静岡放送「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は第18回全体会を沼津市の沼津リバーサイドホテルで開いた。トークショーで沼津市出身の映画監督原田真人氏が「映画『わが母の記』を語る」をテーマに沼津、伊豆湯ヶ島ゆかりの文豪・井上靖の自伝を基にした作品に込めた思いやエピソードなどを紹介し、同じ井上作品の「しろばんば」の近い将来の映画化に強い意欲を示した。全体会に先立ち、運営委員会を開き、2013年度の活動方針として3つのテーマについて協議した。

全体会には約150人が出席した。松井純静岡新聞社・静岡放送会長は「経済の停滞が深刻。先の読めない状況が続くが、きょうは原田監督のお話を聞いて心を豊かにし、あすの活力につなげてほしい」とあいさつし、栗原裕康沼津市長は「『わが母の記』の大ヒットは沼津や伊豆市でのロケ誘致活動や市民の協力が花開いたもの。今後のロケ誘致活動の参考になるお話をうかがいたい」と期待を寄せた。

運営委員会（委員長・井口賢明あさひ総合法律事務所長）では事務局から、①ものづくり産業とファルマバレープロジェクトの連携支援 ②県東部地域再生に向けたまちづくり支援 ③新たな観光交流戦略の促進—の3つのテーマが示され、活動方針の成案化に向けて意見を交わした。

主催者代表あいさつ

静岡新聞社・静岡放送会長 松井 純



年末で何かとお忙しく、しかも総選挙が目前に迫っていてあわただしい中、第18回のサンフロント21懇話会全体会に多数の方がお集まりいただき、誠にありがとうございます。

総選挙はもろもろの調査からだいたいの結果が予測できますが、一番の問題の経済がどうなっていくのか、その先がよく読めない状況にあります。きょうはゲストに原田監督を迎えて「わが母の記」の映画を中心に話していただきます。県東部は井上靖をはじめ、「伊豆の踊子」の川端康成、歌人の若山牧水、そして三島駅前「ことば館」がある大岡信さんなど多くの文学を育んでいます。世界遺産を目指す富士山の文化的な価値も見逃せません。

原田監督のお話を通して心にゆとりを持ち、心を豊かにしてあすへの活力としていただければと思います。

開催地・懇話会代表あいさつ

沼津市長 栗原 裕 康



サンフロント21懇話会の皆様方には常日ごろから東部の活性化にさまざまなご尽力をたまわり、私ども行政に対して有益なアドバイスをいただいておりますことにお礼申し上げます。

沼津市は4年ほど前から映画やテレビのロケを誘致する活動を「ハリウッドまで呼んじゃおう」という意気込みで展開しています。商工会議所と市で専従の臨時職員を出し、昨年は30数本を誘致しました。「わが母の記」は沼津市と伊豆市で市民の皆さんと一緒にバックアップした作品です。大ヒットし評価も高いということで我々の活動が花開いたという気がしています。

ロケ地は景勝地に限りません。一般家庭の台所、トイレ、居間もロケには必要です。原田監督から今後の活動に有益な指導、助言がいただければと期待しています。



トークショー 「映画『わが母の記』を語る」

映画監督
ゲスト 原田眞人氏

130万人動員 ベスト10に県内3館

—2012年4月28日に公開された映画「わが母の記」は入場者数130万人の大ヒットとなり、東部・伊豆の美しい景色も印象的な作品です。沼津や伊豆にゆかりが深い昭和の文豪・井上靖さんの自伝的小説をもとに原田さんが脚本と監督を務められ、東部と伊豆が舞台となっています。作品は海外でも話題となり、カナダ・モントリオール世界映画祭で審査員特別グランプリを受賞されました。大ヒットと合わせおめでとうございます。どんな点が皆さんに支持されたと思われますか。

原田 130万人のうち静岡県だけで20万人の方に見ていただきました。映画館別の入場者ランキングベスト10に県内の映画館が3館入りました。こんなことはまずないそうです。出資や協力してくれた方々の支援、そして県民の皆さんの応援によって130万人の動員が達成できました。本当にありがとうございます。

—私も沼津出身ですが、沼津出身の原田監督が沼津、伊豆湯ヶ島にゆかりの井上さんの作品で国際的な賞を受賞されたのはとてもうれしいニュースでした。

原田 モントリオールの後もいろんな国の映画祭に行っていますが、映画も政治とは無縁じゃないということを経験しました。実は中国で一番大きな映画賞の外国映画部門に「わが母の記」がノミネートされ、僕も招待されていたのですが直前になってああいう政治状況になり、向こうから「安全ではないから来ないでほしい」と言ってきた。公開が決まっていた台湾でのキャンペーンへの招待もキャンセルになった。「政治につぶされたかな」という気がしました。あれこれ含めてどこかでリベンジをしなきゃいけないと思っています。

—中国の映画祭にノミネートされたことは世界に共通する母への思い、親子愛、家族の絆という作品のテーマがあったかと思いますが。

原田 井上先生の作品のうち欧米圏で一番よく読まれているのが「猟銃」と「わが母の記」です。特に「わが母の記」は欧州で人気が高く、フランスでは舞台になっています。僕はテレビドラマを撮影中でモントリオールには行けませんでした。そのころモントリオール市内の劇場で「猟銃」を翻案した舞台をやっていて、受賞の記者会見では原作との共通項と違いについてなど細かな質問がいっぱい出たそうです。僕が行った映画祭ではハワイ、パームスプリングスでものすごく反応がよかった。そこにはロケ地をキャンペーンするグループを送り込むことはできませんでしたが、韓国・釜山の映画祭では実際にグループが行ってロケ地マップなどを配りました。やはり見た人の感動がじかに伝わってくるのは時間と空間を表現できる映画です。空間には必ず目が行く。「あの場所はどこだ、どこにある、その場所に行ってみよう」ということになります。ですから映画には政治や経済の状況を超えていく力がある。

—「わが母の記」では主人公の役所広司さんが母親役の樹木希林さんを背負って海辺を歩くシーン、親子の絆を確かめ合うシーンが感動的ですが、これは原作にはないものを書き加えたのですか。

原田 原作を拡大解釈した部分はいろいろありますが、基本的には井上先生の世界からは離れてはいません。あの海辺のシーンも母親を湯ヶ島から東京・世田谷の家に連れて帰る時、どのルートだったかを原作では細かく書いていません。沼津を通ってと出てきたり、別のエッセーにはそれに近いものを書いてあったりする。本当は主人公が少年時代に泳いだ静浦で撮りたかったが、当時とはあまりにも違って。そこで映画的な処理がで

きる美しい昭和の浜辺はどこかということで探し当てたのが小浜海岸です。実際には漂着物で汚れていました。そのゴミを市民総出、マンパワーで片付けていただき美しい海岸に仕立てました。あの美しい映像のベースにはスタッフだけでなく地域住民の協力が息づき、すごくいいシーンになりました。しかも撮影日が3月10日、あの大震災の前日でした。夜明け前から撮影に入った海のシーンは天が味方をしてくれたというか、本物の日差しに恵まれました。沼津の民家で最後のシーンを終えて打ち上げとなり、充実感・高揚を分かち合った。それから24時間も経たないうちに東日本大震災ですから。スタッフ、キャストにとって忘れられないものになりました。

8割本物を残せ 協力体制構築が重要

—東部・伊豆地域では映画やテレビのロケを誘致して活性化を目指す動きが活発です。ロケ場所はどのように選んでいますか。

原田 「わが母の記」は基本的に僕のホームグラウンドでした。湯ヶ島の辺りも昔仲間とバイクなんかで走り回っていたところでしたが、主に夜だったこともあってあの美しいワサビ田を知らなかった。初めは湯ヶ島の部分を湯ヶ島で撮るのは難しいと思っていました。でも実際に見てみたらそうでもなく、まだ素晴らしい部分が残っている。しかし大正から昭和にかけての湯ヶ島を面として見せるのはもう難しくなっているから一点集中のポイントを探しました。バス停は滑沢溪谷の美しさを借り、落合楼の脇にある吊り橋はコンクリートの支柱などをCGで消して使った。今はそういうことが簡単にできるようになりましたが、やはり8割本物が残っていないとダメです。残っていてよかったというものは他にもいっぱいあります。

今、「わが母の記」の延長線上で考えているのが「しろばんば」です。同じ井上先生の世界でも大正まで戻って1920年代の伊豆を描いていく時に使えるものがまだかなりある気がします。峠道やワサビ田を中心とする環境など伊豆の世界を残しておいてもらえれば、あと5年以内に何とかお金を集めて「しろばんば」を作るようにしますから。「わが母の記」は直接制作費2億7千万円、宣伝費とかプリント費などをパッケージにして4

億9千万円と言っています。この「しろばんば」は世界的なスケールの映画にしたい。それは制作費を膨大にかけるという意味ではないのですが、最低でも倍はかかるでしょう。まず時代が古い、登場人物がもっと多いことに加え、草競馬やマラソンシーンは忠実にやらないといけない。当時の草競馬のシーンは日本で無理だからニュージーランドに行って撮るとか海外でやることになります。そこで海外のロケ地と結びついてスケールアップした制作マインドを構築して海外の出資者とも組み、世界に向けて発信する。ワールドプレミアムもカンヌ、ベネチア、ベルリンの3大映画祭のいずれかで大々的にやって、その時に伊豆の風景の美しさ、県全体も含めてキャンペーンを繰り広げられるような戦略を持ってやっていけたらいいなと思っています。日本から発信する世界レベルの映画を作って世界の人に愛されるということになっていかないと。政治だけに任せていては日本は孤立していくばかりですから。一点突破には映画が一番いいと考えています。

—「しろばんば」が映画化されれば、また東部・伊豆の美しい所がたくさん世界に発信されていくことになります。「わが母の記」には棚田になったワサビ田が出てきますが、地元から具体的な提示があったのでしょうか。

原田 フィルムコミッション（FC）の方からも聞きましたし、僕も部分的には見ていました。明治時代から続いている棚田をロケハンで初めて見て、これは絶対に使わないといけないと思いました。使わせていただきましたが、実は100%の協力は得られませんでした。ご承知のように今のワサビ田はブルーシートが張ってあります。全てどけたいわけですが、フレームの中で3分の1ぐらい残ってしまいCG処理しました。100%の協力が得られたらワサビ田を使ったエピソードをもっと増やすことができましたが、僕だからというか地元の間人だから妥協してしまう。ところがハリウッドのプロダクションがワサビ田全体を撮りたいという時に半分がノーだと言ったら帰ってしまいます。そういう協力体制も取り付けられないのかということです。これはワサビ田に限ったことではなく地域のフィルムコミッションが仕切っていく場合に、作品が大掛かりになればなるほど要求の度合いも大きいから、地域住民を説得して協力体制を築くことができるかが重要になってきま

す。

あいまいな日本のFC 米国流の契約学べ

—フィルムコミッションはどんな点をもっと整備していったらいいのでしょうか。

原田 米国の場合は各州のフィルムコミッションにはベテランがいてやり慣れているし、ロケーションマネージャーが来て借りた家の壁を全部塗り替えたりするのですが、撮影が終わったら元に戻すという契約になっている。米国は契約社会ということもありますが、きちっとした契約、保証があるから地域住民が被害を被ることは絶対にない。その点、日本はあいまいです。先ほど30何本来たという話がありましたが、理想的なプロダクションばかりだとは思えない。中にはとんでもないプロダクションが入っていたと思います。それをどうやって見分けていくか。現実にはシビアな契約社会のノウハウを持っている人が必要で、いなければ米国のフィルムコミッションに何か月か留学して実際の運営を学んでくる。正直言って映画人はずるいから騙されてしまう。日本人はお金の話があまり好きではないけど、こうやるためにはいくらかかる、いくら出す、いくら持っているのかということをや取りし、追求して数字をはっきりさせる。それがはっきりしない制作プロダクションには協力しない方がいい。

映画を作る形態はどんどん多様化しています。今度の僕の新作は携帯で配信しそれから劇場公開するという二本立てで攻めていく。その業界を見てよく分かったのはまだ何も確立されていないので、ある意味無法地帯です。現場に不慣れなプロデューサーが多い。あいまいなところで物事が進んでいっていろんなところに迷惑をかけてしまい、トラブルを起こすことがあり得る。ですから人を見極めることがますます重要になっています。—今回は民家、沼津市内の個人のお宅で撮影した部分が多いそうですね。

原田 この場合は特別ですけど、例えば一般家庭を使わせてもらう場合、僕の米国での経験を言えばまず州に狙いを付け、ロサンゼルスにあった出張所で目的の建物、ロケ先を探しました。そうすると撮影が可能な民家の資料写真が一覧できる。バスルームならバスルームがずらりと並んだファイルを見ることができます。玄関は玄関、寝室は

寝室と網羅されている。その中から選んで交渉を始めるわけですが、これは驚きでしたね。

—日本ではそういうリストがありますか。

原田 ないですね。基本的に日本人は家を撮られるのが嫌ですから。そこはビジネスとして成立させる必要があります。ロケ誘致も人のつながり、人間関係から作っていく日本型と、契約という米国的なやり方をうまく共存させていく必要がある。日本に海外から来た人たちにはまず表のリストを見せ、裏の方ではある程度の人間関係ができていくからどこかでそれを出していく。この辺りが日本のすべてのフィルムコミッションに要求されていることだと思いますが、マンパワーがいるからリスト作りまでなかなか進まない。ロケ場所を押さえてもそれぞれの家庭の事情の変化もありますから定期的なチェックが欠かせない。どこまでスタッフを抱えて運営できているかによって違いが生まれる。

—リスト作りから入っていくということでしょうか。

原田 この前、沼津市の栗原市長とお話した時に「沼津市の海岸線は長い。それを線で描いたらヒッチコックの横顔のようになるからポスターに使える」と提案しましたが、リストでは売りは何か、魅力は何かにポイントを絞りたいですね。「わが母の記」の撮影を通じて伊豆の奥深さを知りました。ハリスが下田から江戸まで上っていったルートなどをほぼ当時に近い形で保存しておけば本格的な時代劇が撮れる。かつて伊豆は時代劇撮影の宝庫でした。県西部の山の中にも時代劇が撮れる所がいっぱいあるから、静岡県でも時代劇が撮れることを売り込んでいく。

—どうして時代劇にこだわるかということ、このままの状態が続けば日本の一つの映像文化の技術が枯渇してしまうからです。実際に京都で時代劇が撮りにくくなっていて結髪とか衣装の職人が持つ技術が廃れる恐れがある。ここは踏ん張って時代劇をどんどん作っていくようにしないと。それもテレビレベルではなく時代考証もしっかりしたもの、クリント・イーストウッドがウエスタンを再構築して「許されざる者」を撮ったように本物観を追求していく。そういうものを企画も含めて伊豆で時代劇を立ち上げて誘致したらどうでしょう。—地域の魅力探しをもう少しまなくしないといけませんね。案外住んでいると見失ってしまうと

か気づかない所がありますから。

原田 毎日目にしていると、こんな所だから絵にならないと思っても実はそうじゃないことが意外と多く、我々がびっくりするような空間であったりします。「わが母の記」から一例を紹介すると、滑沢溪谷に最初から踏み込まなかったのは伊豆の踊子遊歩道とうたっていたからです。観光地みたいだから見るに値しないだろうと行かなかった。既成概念にとらわれちゃいけない、再検証、ダブルチェックが必要になるということです。

一口ケ場所では伊豆の皆さんが鹿のシチューや猪汁を振る舞い、温かい食事を用意してくださった。

原田 そうなんです。日本映画はロケに出掛けた時はロケ弁、お弁当、冷たい弁当です。昔は旅館に泊まって美味しい食事にもありつけたのですが、今は旅館に泊まっても弁当というケースが多い。スタッフ、キャストは美味しいものに飢えているし、温かいものは心に残ります。伊豆のロケではローカルのケータリングを含めて本当にありがたかった。ロケ誘致の時に食は重要事項の一つとして考えておきたい。

僕が今まで体験した最高のケータリングは「ラストサムライ」に出演した時です。ハリウッドはお金があるといえばそれまでかもしれないが、トム・クルーズが呼んだケータリングは一人頭一食13ドルぐらいで20ドルを超えることはない。だいたい4、5種類あってサラダもドーンと置いてある。主要キャストとスタッフ、エキストラの格差はありますが、一人頭いくらで何人分というのをきちんと計算し、その中で選択肢のある料理を出している。食は映画を運営していく上で大きな魅力になりますから、ロケ撮影をしたいという担当者が最初に来た時に一人頭いくら出してどういうふうになるという数字をはっきりさせ、こういうケータリングができるということを示すことが重要だと思います。これはビジネスとしてちゃんとやった方がいい。「わが母の記」では皆さん協力的でそこに甘えた部分がありますけど、あれがちゃんとしたビジネスとして成立していたのであればとてもいいなあと思いました。

取り壊された井上邸 タイミングに恵まれる

—井上靖さんのご自宅や軽井沢の別荘を使って撮影されていますが。

原田 東京・世田谷の家は撮影終了後の去年5月に取り壊され、メインの居間と書斎だけが旭川に移築された。おばあちゃんと3姉妹がランプをした2階とかは全部なくなっちゃった。一步間違えばあの空間は間に合わなかった、一番いいタイミングで撮ることができました。既に壊すことが決まっていたので1950年代がイメージできるような壁紙を張り替えたり、竹垣を作ったりと全部変えることができた。我々が交渉したのは世田谷の家だけでしたが、井上家の方から「軽井沢に別荘がありますけど、どうします」と言っていたら、使うことが可能になりました。

この映画は世田谷の井上邸、川奈ホテル、軽井沢の別荘、湯ヶ島の実家と4つのロケーションがポイントで初めはすべて不可能に思えた。それでほかのプロデューサーが手を出さなかった訳ですが、僕らの場合はそれらがうまく運んだ。湯ヶ島だけはいろんなイメージをすり合わせたり、沼津の某屋敷を使ったりして。家屋に関してはこれをゼロからやっていたら制作費が5億を超えていたでしょうね。

—役所広司さんも本物のお宅の中での撮影となると、井上靖さんを演じやすかったのでは。

原田 全く違いますね。書斎は当時井上先生が使っていた机から何から全部置かれたままですから、その空間に入っただけで違ってくる。ですから役所さんはとりあえず書斎に行って1時間でも2時間でも過ごす。軽く本読みはしましたけれど。クランクインの前日は井上邸に入り、主要なシーンの読み合わせ的なリハーサルをしましたが、樹木さんも含めてあの空間になじんでもらった上で本番に臨みました。

入魂の演技は樹木希林 宮崎あおいは目の光

—親子を演じた役所さんと樹木さんは実年齢では10歳しか違わない。それなのに樹木さんが年老いて記憶を失っていく姿をととても丁寧に演じていて。

原田 これは世界のどこに持っていっても皆がく然とします。しかも前知識なしで見ると、樹木さんが最初に登場するときは鏡台に向って髪をなでつけるなどまだ色気を残している。その人をずっと見ていると背中が丸まって体がどんどん縮んでいく。あれでもう皆びっくりします。まさに入



魂の演技です。なおかつ現場を楽しんでくれたし、いろんなアイデアも出してくれた。例えば映画のラストショット、縁側で長女と日なたぼっこしているおばあちゃんの体の小ささ、それからお菓子を渡すのですが、そのお菓子は彼女が選んだ金沢の銘菓で口に入るとすぐに溶けるのでセリフの邪魔にならないというんです。そこまで考えてやってくれた。他にも最初の打ち合わせで樹木さんは「監督、八重さんという人はスタスタ歩くと思うの」と僕では及ばないアイデアを示した。

僕は樹木さんが今年の映画賞を総なめすると思っていたら、芝居の質とかじゃなくてスターバリューで吉永小百合さんにいった。映画賞はなくなった、あの樹木さんに賞を与えられない映画賞なんてあり得ません。

一キャストिंगで最初から母親役は樹木さんで決めていたのですか。

原田 脚本を書いているときのイメージでは当時まだ存命だった高峰秀子さんとか、無理を承知でもう90歳を超えている原節子さんを引っ張り出すとか、リアリティーのある線では京マチ子さんか浮かんできた。京さんとは実際に交渉しましたが体調が悪くされていた。そういう中で松竹がリサーチし、人気のあるおばあちゃん俳優は年齢は若いけど樹木希林さんが挙がった。本当に樹木さんでよかった。高峰さんにやってもらえたら高峰さんなりの八重はできたでしょうけれどお年を召しているから幅がない、若返るには無理がある。

やはり樹木さんが自分の年齢に10歳プラスし、20歳プラスしてやっていったことが演技としては正しい方向性でした。彼女は特殊メイクはしません。最初から「私は英国のサッチャー元首相を演じたメリル・ストリープみたいな特殊メイクは嫌よ」と言っていましたし、現実日本にはそれほどの技術者がいない。衣装も自前です。あの情熱はす

ごかった。ですから仕事をするたびに樹木さんへの敬意が深まり、全体を引っ張りました。

一宮崎あおいさんも15歳ぐらいの年齢差を演じ分けていますね。

原田 彼女はいいですね。アオイといえば蒼井優と2人のアオイがいて僕はむしろ蒼井優の方が好きだった。もう過去形ですけどね。あおいちゃん本人と会って見たら知的で目の光がすごくきれいでした。物静かで読書家で考えるタイプですが、状況をきちんと見ていてちゃんと溶け込んでいく能力もある。だから芝居が的確だし、僕の感覚とも合う。そんな彼女の美しさをスクリーンにナチュラルに届けたいと努力しました。そのためには芝居がナチュラルじゃないとダメ。作り込む芝居を要求されると、彼女はサービス精神旺盛だからついやってしまう。それから小津安二郎作品のいくつかと、スウェーデンの巨匠イングマル・ベルイマンの「鏡の中にある如く」など合わせて10本以上の映画を参考になるから見ておいてといたら、ちゃんと見せてくれている。学習能力が高い。この映画における宮崎あおいの目の光は学習している時の目の光です。

伊豆のロケ地残して 新作は社会派エンタメ

一素晴らしい俳優陣と共に美しい景色があったわけですね。これから原田監督が東部・伊豆でこんなところで撮影してみたい、こんなところを使っ

て映画を撮りたいという場所がありますか。

原田 あるけど今は言えません。他の人に荒らされたくないから。「しろばんば」の方向に結び付けていくと、伊豆を伊豆だけの空間で終わらせないためには国内、海外のいろんなところをつなぎ合わせて1920年代を作って行かなければならない。その根幹にあるのは伊豆です。伊豆がしっかりしてくれないとダメです。「金融腐蝕列島 [呪縛]」の舞台A C B銀行は県も違う、町も違うという7カ所ぐらいを合わせて一つの銀行にした。「しろばんば」の湯ヶ島は国も地域も違う5、6カ所をつなぎ合わせたロケーションになるでしょう。皆がびっくりするような1920年代になり、CGもプラスする。そうすると桃源郷みたいなものが生まれるような気がします。ですから開発の声がしたら飛んで行って止めます、そこはロケ地に残しておいてほしいと。

—現在、新しい作品を制作中とかがいましたが。

原田 仕上げの最中です。先ほども触れましたが、携帯配信の作品です。それだけでは表現者の僕としては中途半端なので劇場版の映画も作るということでOKならやるよと、10月からクランクインしました。たぶん2月から配信になるでしょう。ものすごく暴力的な映画ですよ。

—「わが母の記」とは対照的な作品になりますね。

原田 同じ監督の作品だからと思って見に来るとちょっとショックを受けるかもしれない。オリジナルで脚本を書きましたが、1994年に撮った「KAMIKAZE TAXI」の延長上にある社会派エンターテインメントです。この「KAMIKAZE」を前もって見ておいていただくと分かりやすいでしょう。新作のあらすじはやくざの組長が「放射能が怖いから組全体でブラジルに移住しよう」と言い出し、キムラ緑子、赤間麻里子、土屋アンナの武闘派3姉妹が殺しまくるといふ暴力を通じてしか家族を作れない連中の話です。

僕は3・11の後、麻生幾さんの「前へ！—東日本大震災と戦った無名戦士たちの記録」という自衛隊の話を大震災企画として進めたけれどつぶれてしまった。そのころ放射能パニックを描いた黒沢明監督の「生きものの記録」を見直していて、この黒沢監督の精神でやくざ映画を作ってみようと思った。大震災・原発災害もやくざの世界に置き換えたら余計な制約なしに映画が撮れますから。

ちなみに「生きものの記録」は、1954年の原

水爆実験（ビキニ環礁）で焼津の漁船「第5福竜丸」が巻き込まれて乗組員1人が死亡し、放射能パニックに陥った当時の世相を反映した映画です。三船敏郎演じる鋳物工場の社長が「放射能が怖い」と言ってブラジル移住を計画したことに伴う家族崩壊のドラマですが、ヒットもしなかったし評価も芳しくなかった。3・11で見直された。僕も「生きる」はむしろ凡作で、「生きものの記録」の方が傑作だと思います。

5年以内に「しろばんば」 世界に発信の本格派で

—最後になりましたが、東部・伊豆地域の人も楽しみにしている「しろばんば」の映画化について。

原田 5年以内に何とかやりたい。やる時には主人公の洪作少年は大々的なオーディションもそうですが、半年ぐらいかけてトレーニングする。そういう懐の深い映画作りをしていかないと。本格派の大作としての構えでやっていきたいという思いがあります。

そのウォーミングアップでもう5年越しの企画ですが、1940年代第2次世界大戦のマレー侵攻作戦から始まるシンガポールでの日本統治下でつぶされそうになった博物館を取り巻く人間ドラマが実現しそうなので、何とか映画化にこぎつけた。この作品で1940年代のスケール感をもったものを作り、その後に1920年代の「しろばんば」に飛び込んでいけたらいいなあと思っています。—これからの活躍、そして東部・伊豆が原田監督の映画を通して世界に発信されていくことをとても楽しみにしています。ありがとうございました。（聞き手 水野涼子SBSイブニングアイ キャスター）

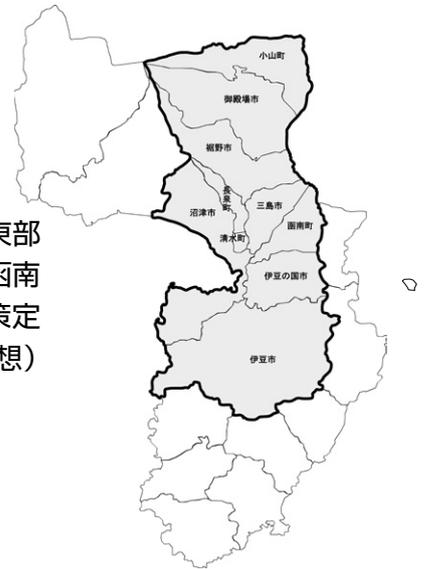
〈プロフィール〉

原田 真人 (はらだ・まさと) 氏

1949年沼津市生まれ。ロンドンへの語学留学を経て映画関係雑誌の特派員。73年ロサンゼルス移住。78年日本に戻り、翌年長編第一作「さらば映画の友よ インディアンサマー」を監督。東京とロサンゼルスに拠点を置き活動している。2008年4月～12年3月まで日本大学国際関係学部教授。11年「わが母の記」がモントリオール世界映画祭で審査員特別グランプリを受賞。

●県東部10市町・グランドデザインが完成 サンフロント21懇話会が 地元経済団体とともに策定支援

サンフロント21懇話会が静岡経済同友会東部協議会の要請を受け県東部10市町(沼津、三島、御殿場、裾野、伊豆、伊豆の国市、小山、長泉、清水、函南町)を対象に、2年間地元経済団体(商工会議所、商工会、JC)とともに策定作業を支援してきたグランドデザイン(自治体の枠を超えた地域づくり構想)が出来上がりました。その概要を報告します。



1、策定目的

企業のグローバル化で県東部への進出事業所の統廃合などが危惧され、交通ネットワークの発展で首都圏に近いという優位性も薄れている。こうした現状認識を共有し地域資源(人、モノ、技術など)の結集、地域内連携を強め、外部環境の変化に大きく影響されることのない自立型の地域経済圏を構築する。

2、基本方針

グランドデザインを県東部の成長戦略に位置づけ、概ね10年を目標時期とする。圏域の活力を引き出すため「地域内連携」を合言葉に新たな仕組みづくりをつくる。構想の実現性向上を目的に「民間で実践できる取り組み」「行政に期待する施策」「官民連携で効果を発揮する策」を考える。

3、主要取り組みテーマ

- ①技術力の向上と蓄積(ものづくり風土の再生)
- ②業種を超えた連携を可能とするマッチング機能の強化

能の強化

- ③新規事業化に向けた支援体制の構築
- ④広域観光圏域の形成 など9項目

4、住民生活と経済活動を支える防災体制とインフラの整備

万一の災害に備える防災対策の構築と迅速な復興の実現、活発な産業活動を支えるインフラの整備と土地利用のあり方。

5、計画の推進に向けて

例えば優先順位を定め、推進役となる体制固めや関係分野の代表が集い、プロジェクトチームを結成し、具体的行動に移す。

グランドデザインは関係市長・町長へ報告した後、下記の通りセミナーを開催します。会員皆様の積極的なご参加をお願いします。

記

静岡県東部地域グランドデザイン 合同公開セミナー(入場無料)

日時 3月19日(火) 午後3時～ 会場 東レ総合研修センター大講堂(三島市)

第1部 15:00～15:45 基調講演「静岡県東部地域のグランドデザイン」

講師 千谷基雄氏 静岡県東部地域グランドデザイン策定委員会委員長

第2部 15:50～17:10 シンポジウム「地域の強みを生かした再生へのシナリオ」

第3部 17:10～「静岡県東部地域グランドデザイン」の提言

サンフロント21懇話会 事務局

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- ◇(株)テクノサイエンス
・代表取締役 日吉 晴久
- ◇(株)静岡伊勢丹
・代表取締役社長 松村 彰久
- ◇ニューウェルサンピア沼津
・総支配人 田村 治義
- ◇サンワフーズ(株)
・代表取締役専務 横山 滋
- ◇(有)オーシャンフーズ
・代表取締役 齊藤 親洋
- ◇(株)山中兵右衛門商店
・代表取締役 山中 利之
- ◇(株)オトワコーエイ
・代表取締役 小島 一彦
- ◇日本生命保険相互会社
・支社長 清水 範己

- ◇(有)マルニ茶業
・代表取締役 古郡 眞二
- ◇(株)大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店
・店長 丹羽 亨
- ◇日本通運(株)静岡警送支店
・支店長 前田 松美
- ◇富士宮信用金庫
・理事長 篠原 寛

■会員の変更

- ◇(株)エム・エス・エス
取締役 成川 昭雄 →
総務・経理部長 上野 充史
- ◇(株)ホンダカーズ静岡
代表取締役 杉山 敏夫 →
代表取締役社長 芹澤 正明